

図画工作科指導法における教材の活用方法と表現の関連性について

伊 藤 昭 博

The association between the use of teaching materials, and expression
in arts and crafts teaching methods

Akihiro ITO

【要 旨】

小学校の教育現場において児童の表現をいかに教育者は受け止め、発展させていけるのか教育者にとっては大きな課題になっているように見受けられる。文部科学省の【図画工作編】小学校学習指導要領の中で教科の目標として「材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする」とある。材料や用具を使うためには教育者の知識が必要である。ここでは、図画工作科での表現素材と表現技法に着目し、教材の活用方法と表現の関連性について考察し、児童の表現を豊かにしていくための教育者の関わりについて考えてみたい。表現素材の特性を理解することで、提供する素材を吟味し、また、表現技法を修得し実践することで、児童の表現活動を豊かにするためのきっかけになるのではないかと考える。

【キーワード】

図画工作科指導法 教材の活用 造形表現 表現技法 表現素材

はじめに

児童の造形表現を豊かなものにするためには、まず表現素材への感心興味をいかに持たせるかが重要である。教育者は表現素材の特性を知り、そこから児童の創作意欲がわくような素材の提供や制作現場の確保を考える必要がある。また、提供する素材が児童の視覚や触覚に対し魅力的なものでなければならない。その上で創作するためのきっかけ作りも大切な時間と

なる。例えば、運動会や発表会での体験を思い起こしながら、作品制作につなげる場合も表現素材となるものを児童が興味を持って扱い、様々な工夫ができるようなフレキシブルな教材であるか教育者は吟味しなければならない。教育者は教材の特性を書物やインターネットから得た知識だけではなく、実際に扱ってみることで教材の持つ可能性を感受しなければならない。これらのことを踏まえ、表現技法にはどのようなものがあり、またそれらを扱った表現にはどのようなものがあるのかを解説を交えながら

表現技法の活用方法について探してみたい。

表現素材（教材）と表現技法について

まず、多くの教育現場の表現素材、道具類としては、次のものが挙げられる。

表現素材としては、クレヨン、水彩絵の具、アクリル絵の具、新聞紙、広告紙、段ボール、和紙、セロハン、フェルト、粘土、紙粘土、紙コップ、紙皿、ストロー、すずらんテープ、ビニールテープ、割り箸、毛糸等である。

道具類としては、ハサミ、段ボールカッター、のり、木工用接着剤、セロテープ、両面テープ、ホッチキスなどである。

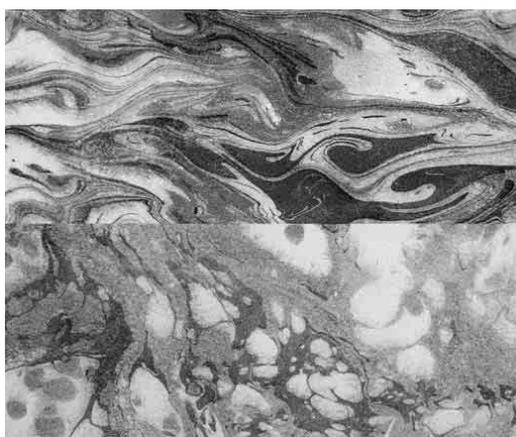
教育現場で活用できる表現技法では、マーブリング、デカルコマニー、フロッターージュ、コラージュ、スタンプング、スパッタリング、スクラッチ、はじき絵、にじみたらし込み等が挙げられる。

ここでは、これらの表現技法の解説と活用方法について記述すると同時に表現技法の活用方法例として本学初等教育科の学生が、図画工作の授業において制作した作品の解説を行うものとする。

マーブリング

マーブリングは、バットに入れた水に水分に反発する描画材を落とすことで、水面上に描かれる複雑な模様や図柄を、紙などに写し取る技法で、マーブリングによって作られる紙は、写し取られる模様が大理石（marble：英）の模様似ていることから、マーブルペーパー（トルコペーパー）と呼ばれている。水に浮いた描画材に串などで模様を描き、空気が入らないように気をつけて水面に紙を置き、描いた模様を写し取る技法である。

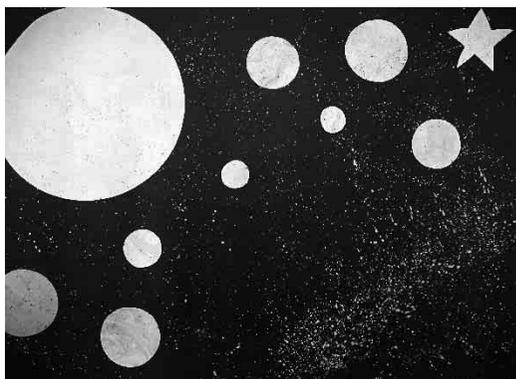
- 用意する材料や用具：マーブリング用絵の具、バット、画用紙または上質紙、爪楊枝、竹串、新聞紙



<http://zokeifile.musabi.ac.jp/>

武蔵野美術大学造形ファイル 2020.1.30

活用方法①：マーブリングをした紙を様々なサイズで円形に切り、黒い色画用紙上に貼り合わせ宇宙空間を制作する。マーブリングされた色合いは、いろんな種類の色があるため宇宙空間に浮かぶ惑星の表現に適している。また、黒い



画用紙上に無数の細かな色合いの絵具をスパッタリングすることで宇宙空間の広がりを表現できる。

活用方法②：マーブリングの便箋と封筒でレターセットを制作する。便箋はB5～A4サイズのコピー紙、封筒は型紙により淡い色合いの色画用紙を切り取りマーブリングを行う。便箋と封筒は新聞紙で挟み水分を取った後乾燥させ、封筒は形に合わせ折り込み糊付けをして完成となる。

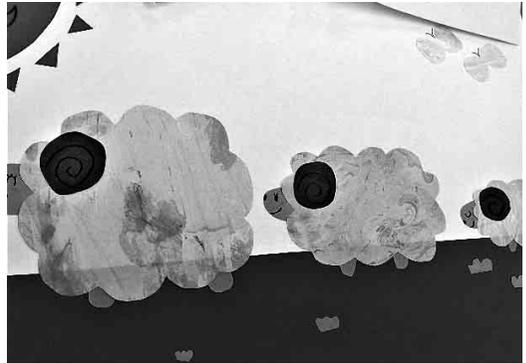


マーブリングでの活用方法例



〈解説〉

ハロウィンのカボチャ部分をマーブリングで表現している。紫の色画用紙（四つ切り）に城の風景をかたどった黒の色画用紙を貼り合わせマーブリングのカボチャ部分が際立つように構成されている。



〈解説〉

白の画用紙に草原部分をかたどった深緑の色画用紙を貼り合わせ、羊の胴体部分をマーブリングで表現している。色画用紙でかたどった羊の角部分と顔部分はペンによる描写である。



〈解説〉

マーブリングにより怪獣とチョウチョにかたどったものを黒い画用紙に貼り付けた作品。色画用紙を部分的に貼り付けることで画面の色合いが豊かな表現になっている。

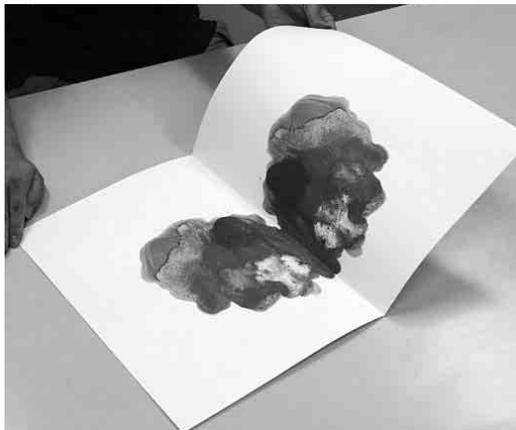


〈解説〉

チョウチョと花の部分をマーブリングにより表現し部分的に色画用紙を貼り付けることで画面の色合いが調和している。

デカルコマニー

デカルコマニーは、半分に折った紙の片方に色の違う絵の具を何色か付けることで、紙を開いたときに左右対称の作品を描くことができる。また、現れた模様の見え方も見る人によって様々なため、偶然に思いもよらない作品ができ上がる。



<http://zokeifile.musabi.ac.jp>
武蔵野美術大学造形ファイル 2020. 1. 30

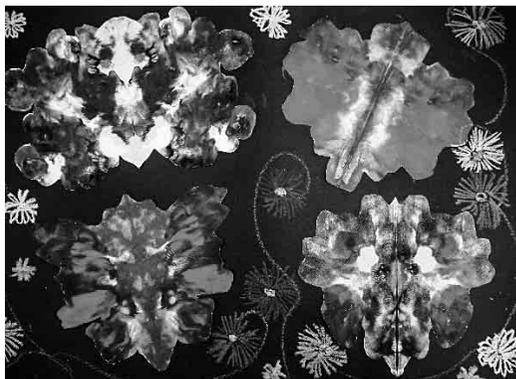
- 用意する材料や用具：水彩絵の具、画用紙または上質紙

活用方法①：デカルコマニーによってできた形をハサミで切り取りチョウチョや花に見立て、

模造紙や色画用紙に貼り合わせ季節の壁面を制作する。空きスペースにクレヨンや絵の具で周りの風景や動物たちを描き込み全体の空間を作り上げる。他にも花や動物たちの表現は、折り紙で制作し、画面に貼り合わせることで表現の幅を持たせることができる。

活用方法②：デカルコマニーによってできた形をハサミで切り取りチョウチョに見立て、新聞紙を丸めた棒の先に接着し、チョウチョがひらひらと飛んでるような動きを演出する遊びにすることができる。

デカルコマニーでの活用方法例



〈解説〉

デカルコマニーででき上がった模様を花やチョウチョに見立て黒い画用紙上に貼り合わせクレヨンや絵具により周りの部分を描き込み花に集まるチョウチョを表現した作品。

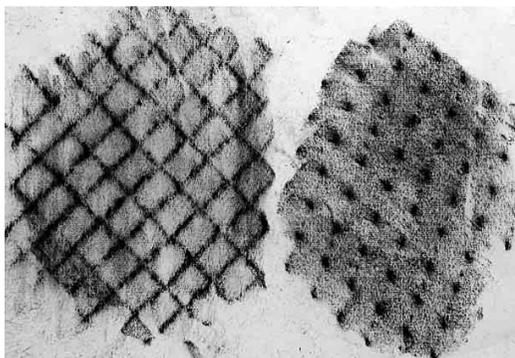
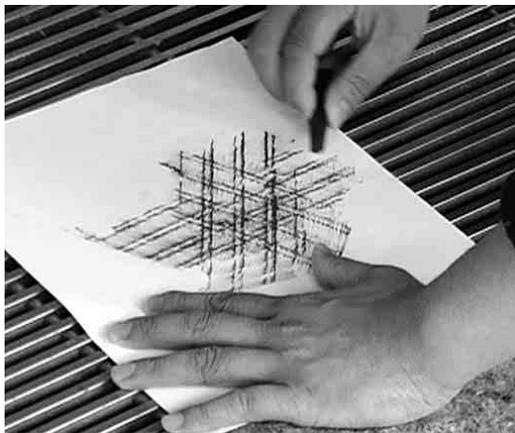


〈解説〉

デカルコマニーででき上がった模様を人の顔に見立て絵本の中の一コマのような世界を表現した作品である。

フロッタージュ

フロッタージュ（こすりだし）とは、表面のこぼこした木の板や石、硬貨などの上に紙を置き、その紙を鉛筆やクレヨンなどで擦ることで、紙の下にある木や石などでこぼこが模様となって写し出される技法のことである。紙の移動や回転させるなどして、偶然にできる色や形を楽しむことができる。

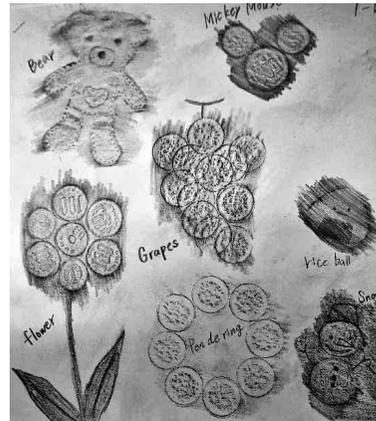


<http://zokeifile.musabi.ac.jp>
武蔵野美術大学造形ファイル 2020. 1. 30

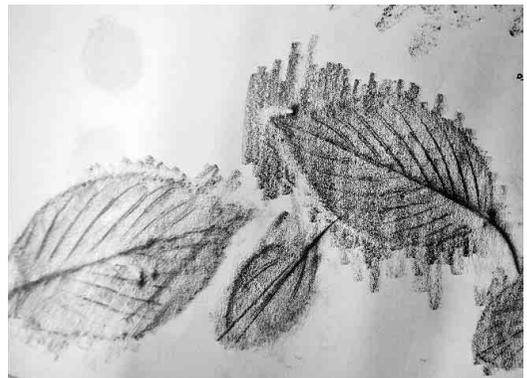
- 用意する材料や用具：鉛筆、色鉛筆、クレヨン、上質紙

活用方法①：1枚の紙に硬貨などをずらしなが

らフロッタージュすることで円形が重なり合った集合体を表現することができる。また、硬貨や鍵型、定規、コンパス等で配置を意識しながらフロッタージュすることで人の顔や動物、虫の形を表現することができる。また、自然物である木の葉っぱや松葉の形状を動物や虫の体の一部に見立てフロッタージュすることで自然界の風景を表現できる。



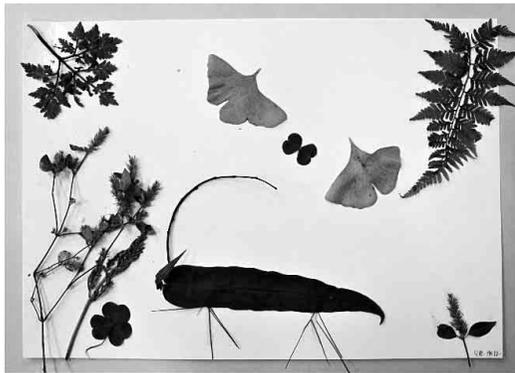
活用方法②：フロッタージュした人工物（マンホール、タイル、壁の模様等）や自然物（葉っぱや樹木の皮等）の形を切り取り、それらを貼り合わせ（コラージュ）することで描画材とは違った表現をすることができる。



コラージュ

コラージュ（貼り絵）とは、クレヨンや絵の具などの描画材を用いるのではなく、落ち葉や色紙など、様々な色、柄、質感のものを張り合

わせて表現する技法のことである。フランス語で「糊付け」という意味の、現代絵画の技法の一つで、パブロ・ピカソやジョルジュ・ブラックなどが始めたパピエ・コレが始まりといわれている。自分の好きな素材を使い、好きに貼り付けていくことで想像力が鍛えられる遊びでもある。



- 用意する材料や用具：画用紙、自然物（落ち葉等）、色紙、接着剤

コラージュでの活用方法例

〈解説〉

画用紙にいろんな色合いの色を塗り込み、様々な形に切り取ったものを組み合わせて絵本の1コマを表現することができる。方法は美し



いと思う4色のアクリル絵の具の組み合わせを選び画用紙に線（ストライプ）を描いたものを1枚制作する。また、もう1枚は6種類の図形（丸、三角、四角、波、格子、点）を4色で描いたものを制作する。その後、ハガキサイズに切り抜いたフレームを作り、画用紙に描いたストライプと図形にフレームをあて絵本の1コマで活用できる部分を切り抜く。切り抜いた余りの部分で絵本の表現となる形を貼り合わせ1コマを完成させていく。



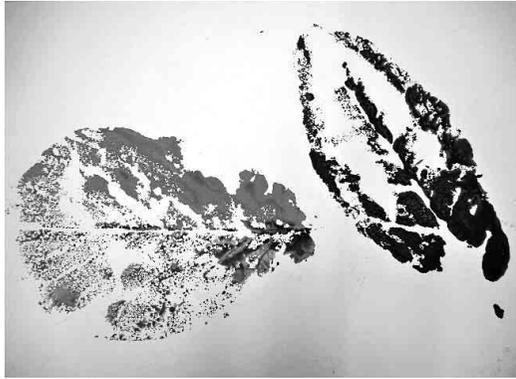
〈解説〉

ストライプで描いたものを人魚や魚、貝、海藻などの形に切り取り海の中の様子を表現している。魚や貝の模様をハサミで切り込むことで表現に工夫がみられる。

スタンピング

身近にあるものを版に、絵の具などを付けて判子のように使って描く技法を、スタンピング（型押し絵）という。素材はペットボトルのキャップ、スポンジ、段ボールといった日常で

使うものやニンジン、ピーマン、玉ねぎ、イモなどの野菜などを自由に型押しすることで新しい模様に出会える楽しい遊びである。絵がうまく描けない小さい子どもでも簡単に取り組み、楽しむことができる。

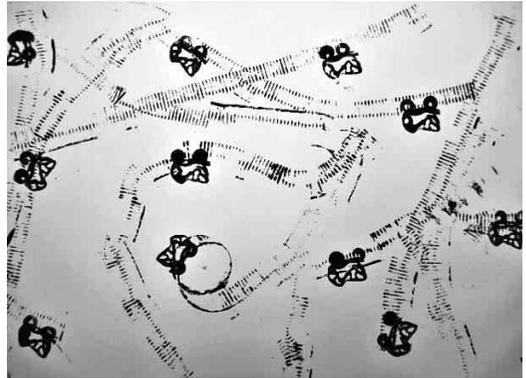


- 用意する材料や用具：水彩絵の具、筆、画用紙、水入れ、スタンプするもの（落ち葉、ペットボトルのキャップなど）

活用方法①：人工物であるコップやペットボトルの底やキャップ、いろんな形体のプラスチック容器に様々な絵の具で色をつけ、大きめの模造紙や画用紙に型押しして絵画表現を楽しむことができる。色や形の重なりによってあるものに見立てたり、子どもたちの遊びの痕跡がリズムミカルな色鮮やかな世界を創り出すことができる。

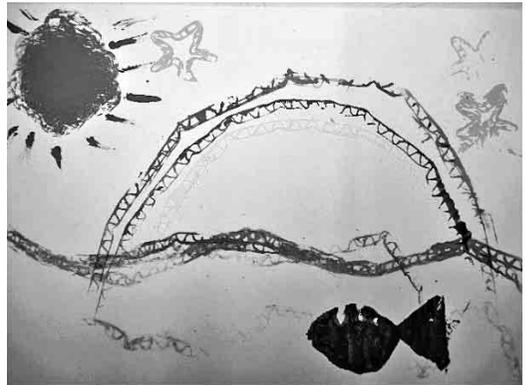
活用方法②：自然物である木の葉っぱや枝、松ぼっくりやドングリ等にバットに入れた様々な絵の具で色をつけ、大きめの模造紙や画用紙に型押しして絵画表現を楽しむことができる。色とりどりの自然物の柔らかな表情が風を感じるような表現に出逢うことができる。また、布にアクリル絵の具で型押しすることでタペストリーや運動会の旗を制作することも可能である。

スタンプングでの活用方法例



〈解説〉

段ボールの一部分を転がしながらスタンプングした躍動感溢れる作品。



〈解説〉

段ボールの断面で様々な形を作り、断面に色をつけスタンプングした作品。海の波、虹、星、太陽部分に段ボールの断面、魚部分に段ボールを裂き魚の形に成形したものをスタンプングしている。

スパッタリング

スパッタリングとは、ブラシに付けた絵の具を金網にこすり画用紙に飛ばす技法のことである。絵の具自体の粒子が細かいためにとっても繊細に描いていくことができる技法である。

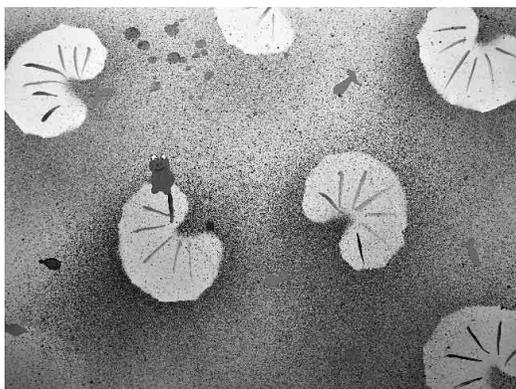
幻想的で美しい絵画表現が可能になり、画用

紙の色自体を変えるだけでも様々な表現ができる。



- 用意する材料や用具：水彩絵の具、ぼかし網、ブラシ、筆、画用紙、ハサミ、水入れ

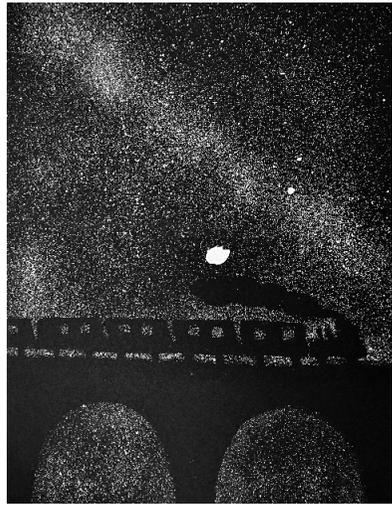
スパッタリングでの活用方法例



〈解説〉

水草の形に切り取ったものにスパッタリングすることで池に浮ぶ水草の風景を表現した作品。

色紙でかたどったカエルと金魚が配置されることで水草の浮かぶ風景が臨場感を増している。



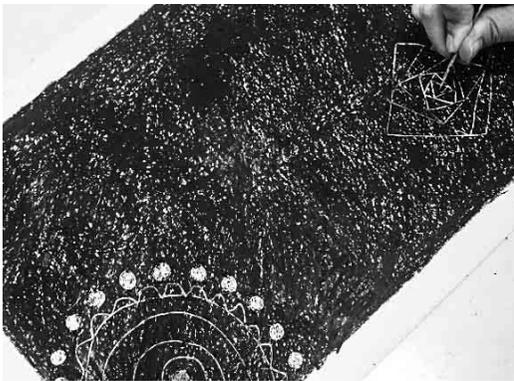
〈解説〉

黒い画用紙の上に明度の高い絵具をスパッタリングすることにより鉄橋の上を走る列車が星空の下を幻想的に表現された作品。

スクラッチ（ひっかき絵）

ひっかき絵とは、スクラッチ技法、削り絵などとも呼ばれる保育の描画技法のことである。画用紙に、あらかじめ隙間のないよう色鮮やかなクレヨンで何色かを塗り、その上から黒いクレヨンやアクリル絵の具で上塗りしていく。その後、上塗りした黒色を、先の尖ったもので削ると下の層の色が出てきて、偶然にできる色や形を楽しむことができる。





- 用意する材料や用具：クレヨン、画用紙、爪楊枝、竹串、竹ペラ

活用方法①：カレンダー作りなどで季節のモチーフを描いたり数字を描き込んだりすることで色彩豊かな表現ができる。

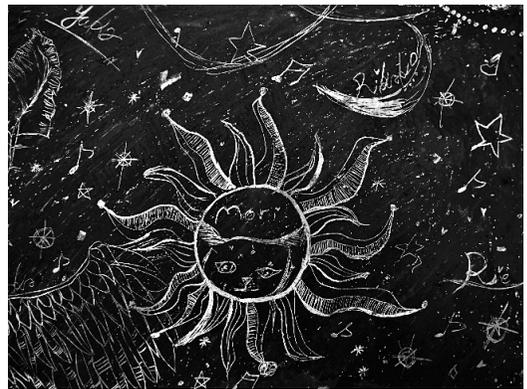
活用方法②：花火大会の様子や海の中の生き物の世界を表現することができる。更に子どもたちの作品をつなぎ合わせることで大作を制作することができる。

スクラッチでの活用方法例



〈解説〉

下地に何色かの色鮮やかなクレヨンで塗り分け、上塗りした黒いクレヨンで爪楊枝で引っかき、夜の海に打ち上がる花火を表現している。背景の星空の表現により花火との遠近が生まれている。



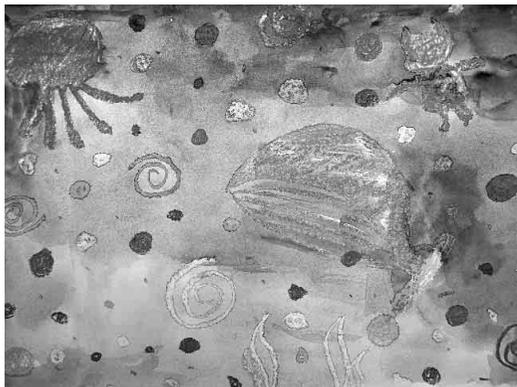
〈解説〉

下地に何色かの色鮮やかなクレヨンで塗り分け、上塗りした黒いクレヨンで爪楊枝で引っかき、太陽と月を擬人化して表現している。絵本の一コマに登場しそうな作品でもある。

はじき絵

バチック（はじき絵）とは、クレヨンやロウなどで絵や模様を描き、その上から多めの水で溶いた絵の具を塗ると、クレヨンやロウの油分

が絵の具を弾いて、思いもよらない色や模様、形を楽しめる表現技法の一つである。



- 用意する材料や用具：水彩絵の具、クレヨン、画用紙、筆、パレット、水入れ

はじき絵での活用方法例



〈解説〉

何色かのクレヨンで描いた花柄の上から水彩絵具で上塗りをしたり、黒い絵具で塗った上にクレヨンで花柄を描いたりすることで表現が豊かになっている作品である。

にじみたらし込み

にじみたらし込みとは、水や絵の具を塗って紙を濡らし、乾かないうちに他の色を置いてにじませる絵画技法のことである。



- 用意する材料や用具：水彩絵の具、画用紙、上質紙、和紙、刷毛、筆、パレット、水入れ

にじみたらし込みでの活用方法例



〈解説〉

水を含ませた画用紙に、いくつかの色をにじませ花束をイメージした作品。色の組み合わせが美しく仕上がっている。



〈解説〉

水を含ませた画用紙に、いくつかの色を筆を走らせ風のようなイメージで制作した作品。絵本の一場面を想像することができる。

考察

以上、小学校の教育現場で活用できる表現技法について解説と活用方法について記述したが、本学の図画工作の授業において制作した作品の制作過程と完成した作品を観察した結果、以下のことが確認できた。

- ・マーブリングにおいては、ほとんどの学生が、これまでに扱ったことのない教材で、使用方法の説明とデモンストレーションの必要性が不可欠である。また、絵の具の特性の理解と完成作品の乾燥方法や制作場所の確保等への理解も必要である。使用方法を理解することで制作に必要な適切な絵の具の分量を把握することが可能である。このように教材への理解を深めることで、美術教育現場での使用頻度を高めていくことが、児童の表現領域の幅を広げていくことにつながっていくものと考えられる。
- ・デカルコマニーにおいては、偶然に混じり合っただけの色合いや形体を楽しみ、現れた形体をあるものに見立てることで表現材料として活用できることが確認できた。意図して作るのではなく、偶然に表出したものから新たなイメージで表現できると考えられる。
- ・フロッターージュにおいては、様々な形体を紙

に写し取ることで新たな絵画表現に展開できることが確認できた。写し取った形体の組み合わせやコラージュすることによって、新たな絵の世界を表現できると考えられる。

- ・スタンピングにおいては、身の周りの様々な形体を型押しすることで、絵画表現の幅を広げることができることが確認できた。型押しされた形体の組み合わせや形体を見立てることで絵画表現の幅を広げることができると考えられる。
- ・スクラッチにおいては、下地に塗る鮮やかな色合いのクレヨンを通常、描く時よりも濃い目に塗ることで上塗りの黒いクレヨンを引きかいた線が鮮明に浮かび上がることが確認できた。引っかけ線だけでも表現として成立するが、線を重ねたり幅のある竹ペラや定規等で面による表現も可能であると考えられる。
- ・スパッタリングにおいては、画用紙の色合いや型抜きする形体によって表現の幅ができることが確認できた。どのようなテーマで表現するのか計画性をもって型抜きする形体を準備し、スパッタリングする色合いや絵具の密度により絵画表現の奥深さの違いが出ると考えられる。
- ・はじき絵においては、クレヨンによって描く色合いと上塗りする水彩絵の具の色合いや絵の具の濃度によって、表現の違いが出ることが確認できた。水彩絵の具で描いた後、更にクレヨンで描くことで表現される作品の完成度が上がると考えられる。
- ・にじみたらし込みにおいては、画用紙や上質紙、和紙等に刷毛等で水を染み込ませ、その上にいくつかの色合いの水彩絵の具を落とし偶然に混じり合う色合いの表現であるが、紙質と染み込ませた水分量でにじみ具合の違いが出ることが確認できた。偶然に紙上で混じり合った色合いからイメージを膨らませ表現素材として活用できると考えられる。

以上のように図画工作科指導法において表現技法を修得することは必須であるが、児童の豊かな表現活動につなげていくことが重要であ

る。また、表現技法の活用方法については、授業での児童の取り組み状況を観察し、表現素材の提供を考え工夫をしながら授業を進めていく必要がある。児童一人ひとりの授業への取り組み状況は、周りの児童にもよい影響を及ぼすことも認識しておく必要がある。例えば、スタンピングにより様々な形体の型押しをしていく中で、おもしろい模様や美しい色合いが表現された時に近くにいた児童が、「すごい。かっこいい。きれい。」と反応を示した場合、同じ形体の型押しで真似てみたり、「それ、かして。」と言いつてみたりと児童の新たな行動が生まれてくることに教育者は注視していくことが大切である。児童は、自らの表現をしていく中で画用紙上に生まれてくる世界を楽しみながら他者とのコミュニケーションを図っているのである。その状況を観た教育者は、子ども一人に1枚の画用紙ではなく複数の児童で関わるができるような大きな模造紙か長めのロール紙でスタンピングをしたら、更に児童の造形表現が発展し、豊かなものになることを想像できるのではないだろうか。このように教育環境の中で展開される児童の活動を敏感に感じ取り、表現素材を考え工夫することが教育者には要求されるのである。

まとめ

図画工作科指導法における教材の活用方法と表現の関連性においては、単なる表現技法を体験させることではなく、表現素材の面白みや不思議さを実感してもらい、そこから児童の創作意欲につながり、周りの児童と一緒に表現できる喜びと達成感を共感することが重要である。教育者も児童と同じ目線で一緒に感動できるような時間を共有できることは貴重な有意義な時間となる。

また、教育環境においても、児童の自発的な活動を促せるような空間を構成しなければならない。表現素材を児童が自由に取り出せるような空間の工夫や道具類の提供の仕方や使い方等、安全面での配慮も必要である。児童の豊か

な表現活動を支えるためには、教育者自身が、表現素材の特性を理解しておくことは大切であるが、その特性を上手く活用し、児童が主体的に創作意欲をわかせていけるような工夫が必要である。

引用文献

- ・ 槇英子 「保育をひらく造形表現」
2008年 萌文書林 P133～P136
- ・ 武蔵野美術大学造形ファイル
<http://zokeifile.musabi.ac.jp> 2020.1.30
- ・ 【図画工作編】 小学校学習指導要領（平成29年告示）
解説（mext.go.jp）